

## 27. 当院におけるHBOのリスクマネジメント

千葉義夫\*<sup>1)</sup> 高橋 洋\*<sup>2)</sup>

{ \*<sup>1)</sup> 社会福祉法人仁生社江戸川病院  
\*<sup>2)</sup> 株式会社小池メディカル }

当院の第一種高気圧酸素治療装置は平成6年4月に導入し、平成13年3月現在の7年間で7500回以上の治療回数を上げてきた。

高気圧酸素治療におけるリスクマネジメントのポイントを幾つかに分けて報告する。

- (1) 医師，オペレーター，患者のインフォームドコンセント
- (2) Bodyチェック
- (3) HBO中の観察
- (4) HBOの終了後の観察
- (5) 患者急変時における連絡体制

## 28. 高気圧酸素治療におけるリスクマネジメントへの取り組み —非常事態発生時の対処マニュアルの作成—

松下賢一\*<sup>1)</sup> 杉山弘行\*<sup>2)</sup>

{ \*<sup>1)</sup> 都立荏原病院高気圧酸素治療室  
\*<sup>2)</sup> 同 脳神経外科 }

【目的】今回、当院では高気圧酸素治療におけるリスクマネジメントへの取り組みとして、治療中に発生した非常事態に対する装置操作者の対処マニュアルを作成した。

【方法】マニュアル作成は次に示すような手順で行った。「治療中に非常事態が発生する原因の検討」→「治療施設の設置条件、安全対策、人員配置等の検討」→「前2項目の条件下で発生する可能性のある非常事態の検討」→「非常事態発生時の対処方法の検討と作成」

そこで、まず治療中にどのような原因で非常事態が発生するかを検討し、大まかに3種類に分類した。まず1つ目に装置に関することとして、装置の故障や誤動作。2つ目に患者に関することとして、治療中の様態の急変や高気圧酸素治療の副作用による酸素中毒や気圧外傷の発生。3つ目に装置が配置されている病院の施設や環境に関することとして、火災や停電、加圧用空気の汚染。次に、治療装置の設置条件、安全対策、人員配置等の検討を行った。以上の検討から治療中に発生する可能性がある非常事態として13項目をあげた。

【結果】13項目の治療中に発生する可能性のある非常事態に対する装置操作者の対処マニュアルを作成した。マニュアルは「誰にでも理解でき、誰にでも実行できるものでなければならない。」という観点からフローチャートによる表示を採用した。さらに、停電等を想定し非常弁圧弁による減圧表を作成した。

【結論】今回、当院では高気圧酸素治療におけるリスクマネジメントへの取り組みとして、治療中に発生した非常事態に対する装置操作者の対処マニュアルを作成した。